

【私の教育方針】

学校法人緑ヶ丘学園 緑ヶ丘幼稚園園長 篠 直 嗣

- ◆人はこの世に生をうけて存在し、それぞれの役目を負って生きているものだと思います。そしてこの世に於ける出来事全てを辿っていくと、人と人との拘りで成り立っていることを理解できるのです。更にこの関係を理解した上でお互いの発展の為に何をしたらいいかを、親や先人などから学び、個々が成長を遂げて社会生活を営みそれぞれ幸福につなげて参ると考えます。

しかし、現代はコンピューターの普及により、本来有るべきコミュニケーションの方法がすっかり変わりました。文字と映像による便利な世の中の任組で、直接対面しての会話が少なくなり、本当の気持ちを通わなくなってしまう事も多々あります。理想を申し上げるならば、人は相手の表情や身振り音声により、その相手を知り、実際に人と接していないと心が通い合わない事も多くありましようし、真に理解が出来るものではないと思います。コンピューターを否定は致しません。必要な道具ですからその機能を有効に使うべきだと思います。

また、世の中では、親と子供に関する事件が多く起きており、このあつてはならない現実を痛恨の思いで受け止めますが、私は人として、又大事な他人様のお子様をお預かりする者として、この有様を「他人事」としてではなく、子を育てる者として真剣に その「原因」を考えております。

世の中が荒廃していると叫ばれている理由は

「道徳」が無くなってしまったからだと考えます。

- ◆子供（幼児）は「年齢が低いから何も判らない」と思っている大人が多すぎるのではないのでしょうか。
これは大きな思い違いで、子供はただ表現の方法を知らないだけで、子供は全ての事を判っています。

だからこそ、尚更に小さい頃(幼児期)からきちんとした事を教えなければいけません。大人になってからでは遅いのです。

「怒られるから、やめなさい」と云う指導は間違いの教育です。

「やめなさい」と云う理由は、一体何ですか。

「他人に迷惑を掛けなければ、何をしてもいい」と云う考えが、社会を荒廃させるのです。

そしてその結果、個々が不幸になるのです。

良い子に育てるのではなく、「良い大人になる為に正しく育てる」

ことこそが親としての務めではないのでしょうか。

■私の考えをまとめると、次の通りになります。

私は「人への思いやり」の出来る幼児だけでなく、保護者にもそれを望んでおります。

幼児期から「道徳教育」を行う事に賛同頂ける誠実な保護者を望みます。

教育とは「教養教育」と「道徳教育」に分けられ、幼児期に力を注ぎ実施しなければならないのは道徳教育「躰」です。重要なのは「人間教育」なのです。

① 誰に対しても、しっかりと「挨拶」が出来ること。

② 「マナー」の意味を認識して、諸事に対して実行出来ること。

③ 社会人として他人の子供をも指導・教育出来る教育者・保護者。

これが人間社会のけじめ・家庭教育・学校教育の根本であります。

この事を身に就けないと、教養があっても人としては欠陥です。

真に幼児に『教育を受けさせたい』とお考えの保護者は、
どうぞ本園に大切なお子様を託して下さい。

●子供は誰にとっても将来を託す大切な「宝物」です。

●私は、未来に向けて平和な社会と、幸福な家庭を創りあげる為の努力をしていきたいのです。

子にとって「親見」は最大の教育者ですから、共に努力致しませんか。

本園は、学校法人の認可を得た「私立幼稚園」です。

従って、「私学」独自の教育方針により教育基本法に基づいて運営されています。

●「幼稚園」は託児所ではなく、子供を「教え育む」学校です。

この幼児期、人間としての道徳・躰を重視される方のお子様をお預かり致します。

以上

※本書の内容は幾久しく変ることのない「本園の教育方針」です。